

第9期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

第9期介護保険事業計画に記載の内容				令和7年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標(事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
①自立支援・介護予防・重度化防止	アンケート調査では、今後の自身の介護について「家族の介護を中心に介護サービスも利用して自宅で生活したい」という回答が最も多い。 高齢になっても住み慣れた地域で生活ができるように、通院や買い物などの支援体制の充実に努める必要がある。	外出困難者の移動支援	支所地域において、一般の交通機関の利用が困難な高齢者に対して、通院や買い物、在宅福祉サービスを提供する場所等への送迎を行う。 外出支援事業の述べ利用者数 R6 8,000人 R7 8,000人 R8 8,000人	外出支援事業の述べ利用者数 R6 8,952人 R7 8,019人	◎	今後、地域の高齢化及び人口減少が進む中で、この事業を継続していくためには、運転手の確保が課題であると考えている。
①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢になっても出来る限り介護を必要とせず、住み慣れた地域で自立した生活を続けることが出来るよう、介護予防事業を推進する必要がある。	高齢者健康教室等の開催による介護予防の推進	高齢者が出来る限り要介護(要支援)状態になることなく、健康でいきいきとした生活が送れるよう高齢者健康教室(シニアいきいき健康教室等)を開催する。 高齢者健康教室等の述べ参加者数 R6 4,400人 R7 4,500人 R8 4,600人	高齢者健康教室等の述べ参加人数 R6 5,859人 R7 6,546人	◎	令和6年度から高齢者が参加しやすい内容・方法に事業内容を大きく変更したことで、より参加者が増えているため、今後も維持していく。
②給付適正化	介護給付を必要とする受給者を適切に認定し、受給者が必要とする過不足のないサービスを事業者が適切に提供するよう促すことで、介護給付の適正化を図る必要がある。	①認定調査チェック ②ケアプラン点検 ③住宅改修等の点検 ④縦覧点検・医療情報との突合	①外部委託分の書面チェック(全件) ②ケアプランの書面チェック(抽出8件) ③住宅改修の訪問チェック ④国保連への委託による縦覧点検・医療情報突合(全件)	①外部委託分の書面チェック(全件288件) ②ケアプランの書面チェック(抽出8件) ③住宅改修の訪問チェック(抽出157件) ④国保連への委託による縦覧点検・医療情報突合(全件)	◎	今後も継続して実施する。 抽出して実施するものについては、更に件数を増やせるように取り組む。